

A 型肝炎

2010年3月以降、全国各地でA型肝炎が多発したため、国立感染症研究所感染症情報センターからアラートが出されました。また、厚生労働省からA型肝炎発生届受理時に分子疫学的な解析を目的とした検体確保と積極的疫学調査が依頼されました。これを受け、県内でもA型肝炎患者糞便の採取が行われました。2010年4月から2011年3月の間に採取された検体数は5件で、うち2件はA型肝炎流行時のもの、3件はアラート解除後の11月及び2月に採取されたものでした。5検体中4検体からA型肝炎ウイルス(HAV)遺伝子が検出されました。

これらの検出遺伝子の解析を行った結果、流行時に検出された1株はIA-2型で、2010年の国内流行の主流ウイルス株でした。このHAVはドイツにおいてフィリピン渡航者から検出された株や、フィリピンから帰国直後に発症した事例から検出された株に近く、フィリピンにおけるHAVとの関連が示唆されています。もう1株は

A型に属し、韓国で2008年以降大流行している株に近いものでした。しかし、どちらの患者も海外渡航歴はなく、感染経路は判明しませんでした。アラート解除後に検出された2件はIA-1型で、従来から国内で検出されているタイプのHAVでした。遺伝子が検出されなかった1検体は、肝炎の発症がなく、肝機能異常のみがみられた患者からの検体でした。

HAV 検査結果

No.	年齢	性別	肝炎発症日	検体採取日	検査結果
1	33	女	2010. 5.24	2010. 6. 3	HAV (A-2型)
2	9	女	2010. 5.28	2010. 6. 7	HAV (A型)
3	26	男	2010.11.10	2010.11.30	HAV (A-1型)
4	6	男	2011. 2. 3	2011. 2.18	HAV (A-1型)
5	81	女	発症なし	2011. 2.22	遺伝子不検出